

◆ 今週のコメント

- ・ 感染性胃腸炎の定点当たり報告数は2.27(93例)で、前週(2.15, 88例)よりも増加しています。年齢階級別では、1歳が最も多く16例(17.2%)、次いで2歳が14例(15.1%)で、4歳以下が60.2%を占めています。
- ・ A群溶血性レンサ球菌咽頭炎の定点当たり報告数は0.71(29例)で、前週(0.54, 22例)よりも増加しています。本年第19週(5月7日～5月13日)以降、過去5年平均値を上回る状態で推移しています。

◆ 今週のトピックス:<RSウイルス感染症>

RSウイルス感染症の定点当たり報告数は1.22(50例)で、先週(1.49, 61例)より減少したものの、依然として過去5年平均値を大きく上回っています。詳細をトピックスに掲載しています。

◆ 発生状況

全数把握の感染症

- ・ 二類:結核 3例(肺結核 1例, その他結核 なし, 潜在性結核感染者 2例)うち喀痰塗抹陽性 なし

【1月以降の累積報告数 355例(肺結核 145例, その他結核 76例, 潜在性結核感染者 134例)うち喀痰塗抹陽性 70例】

定点把握の主な感染症

(市内定点数 インフルエンザ定点68, 小児科定点41, 眼科定点10, 基幹定点1)

定点	感染症名	定点当たり報告数	報告数
インフルエンザ	インフルエンザ	0.01	1
小児科 (降順5位まで)	① 感染性胃腸炎	2.27	93
	② RSウイルス感染症	1.22	50
	③ A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	0.71	29
	④ 水痘	0.46	19
	⑤ 突発性発しん	0.37	15
眼科	流行性角結膜炎	0.70	7

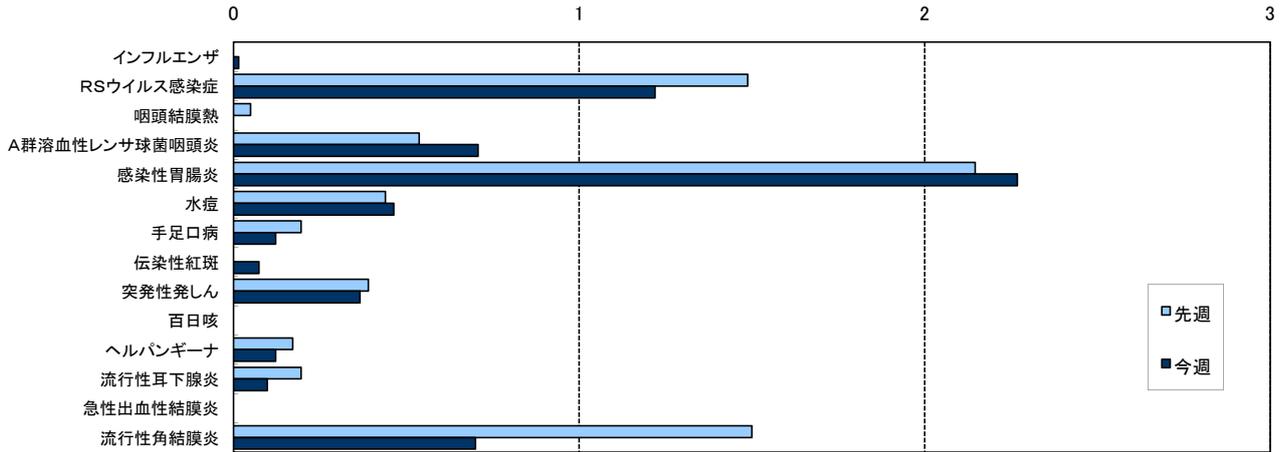
【次ページ以降の主な内容】

発生状況の概況グラフ / 今週のトピックス:<RSウイルス感染症>

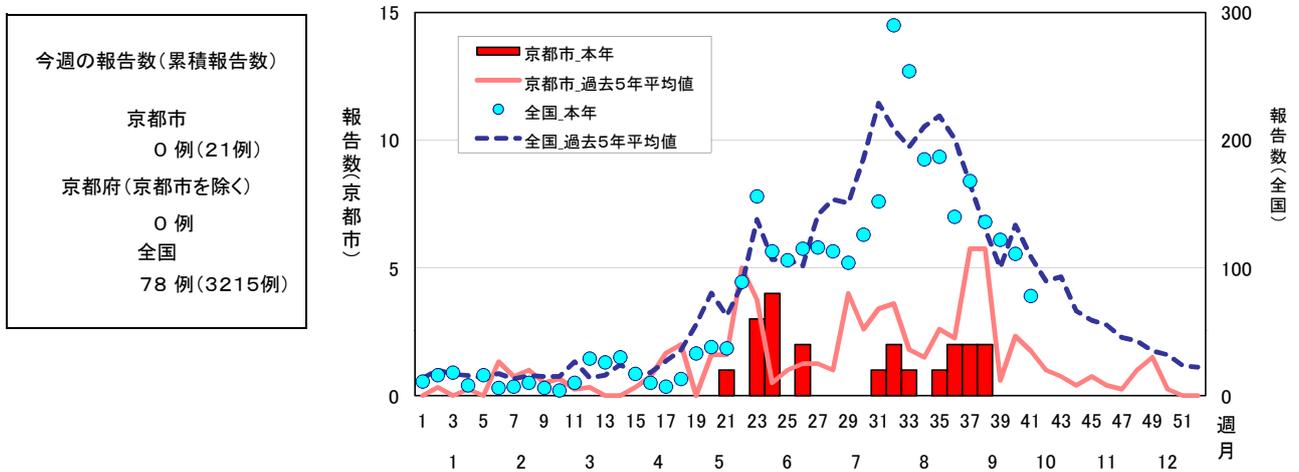
(注)京都市のデータは、平成24年10月18日現在の報告数で、全国の還元データと若干異なる場合があります。また、本情報での患者数は、届出医療機関所在地での集計で、患者の住所を示すものではありません。

◆ 発生状況の概況グラフ

1 今週(第41週)と先週(第40週)の定点当たり報告数の比較



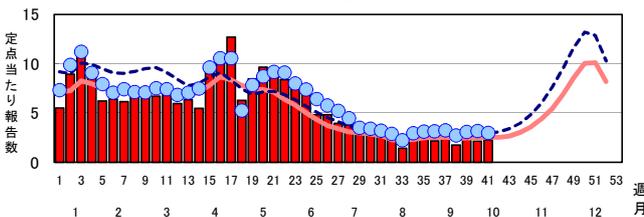
2 腸管出血性大腸菌感染症の推移



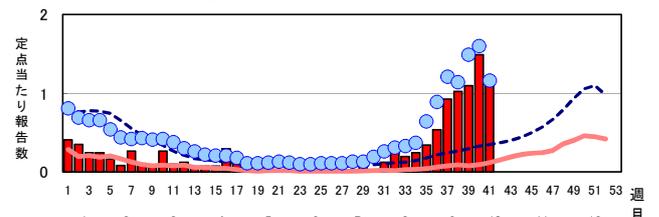
3 主な感染症の定点当たり報告数の推移

<小児科定点>

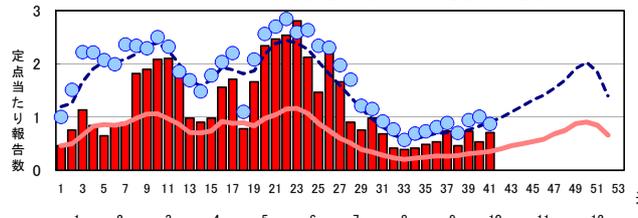
1 感染性胃腸炎



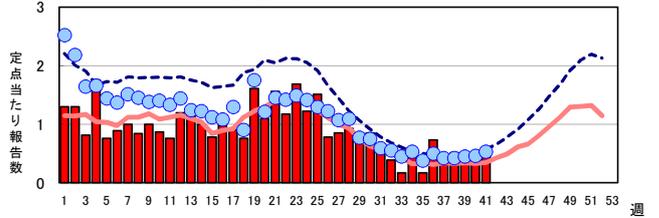
2 RSウイルス感染症



3 A群溶血性レンサ球菌咽頭炎

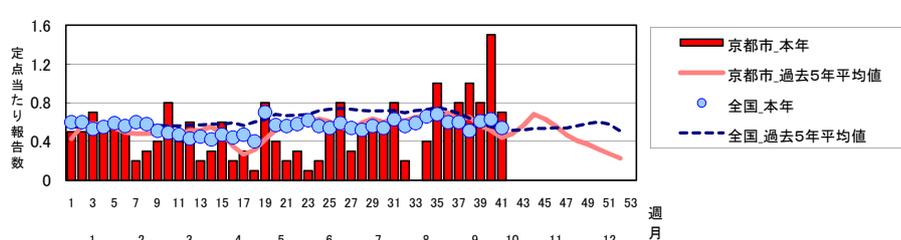


4 水痘



<眼科定点>

流行性角結膜炎



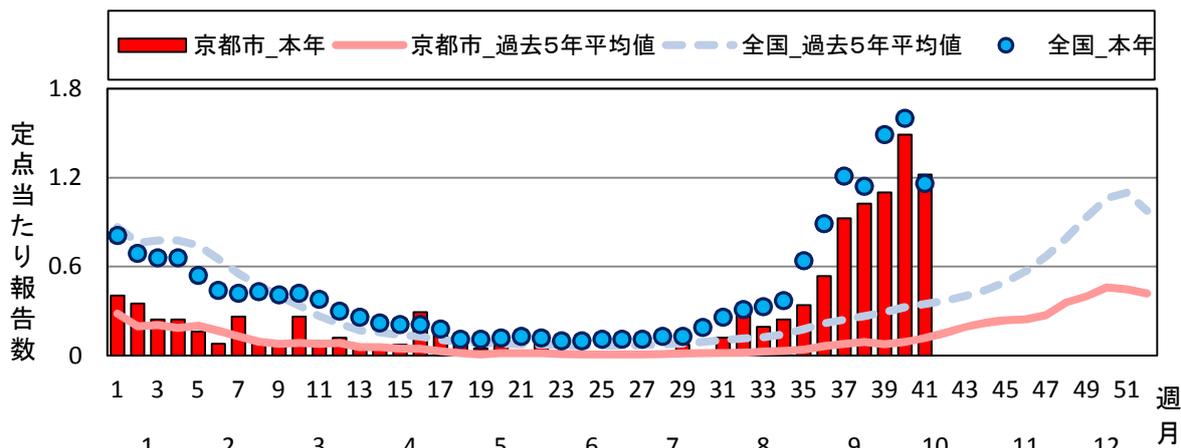
第41週(10月8日～10月14日)トピックス: <RSウイルス感染症>

RSウイルス感染症の定点当たり報告数は1.22(50例)で、先週(1.49, 61例)より減少したものの、依然として過去5年平均値を大きく上回っています。今後の動向にご注意ください。

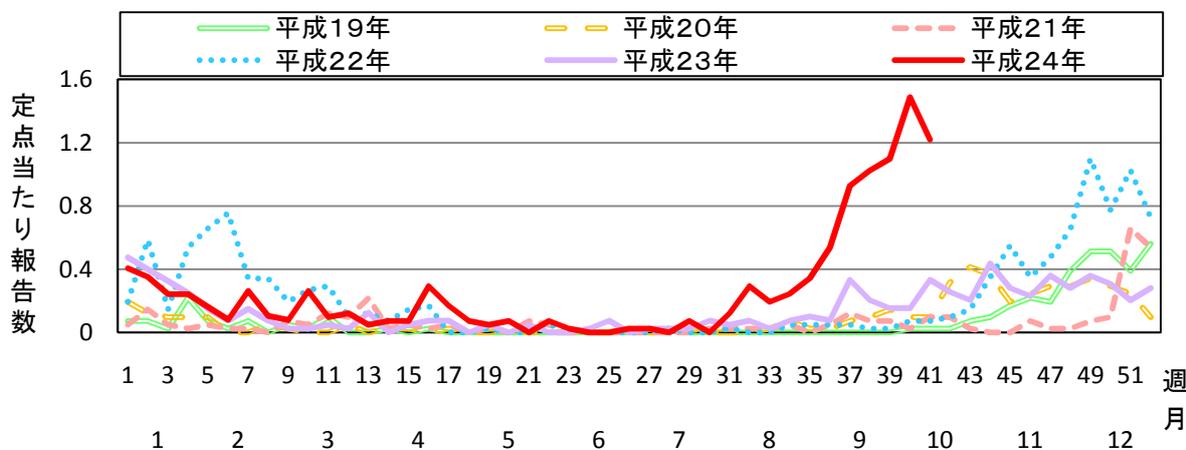
年齢階級別では、1歳が18例(36%)と最も多く、次いで6箇月～11箇月 16例(32%)となっており、0～1歳で82%を占めています。

全国の定点当たり報告数(1.16)は、前週(1.61)より減少しており、都道府県別では、3県(新潟県、滋賀県、岡山県)を除くほとんどの都道府県で減少しています。

本市及び全国の定点当たり報告数の推移



本市の定点当たり報告数の推移



年齢階級別定点当たり報告数の推移

